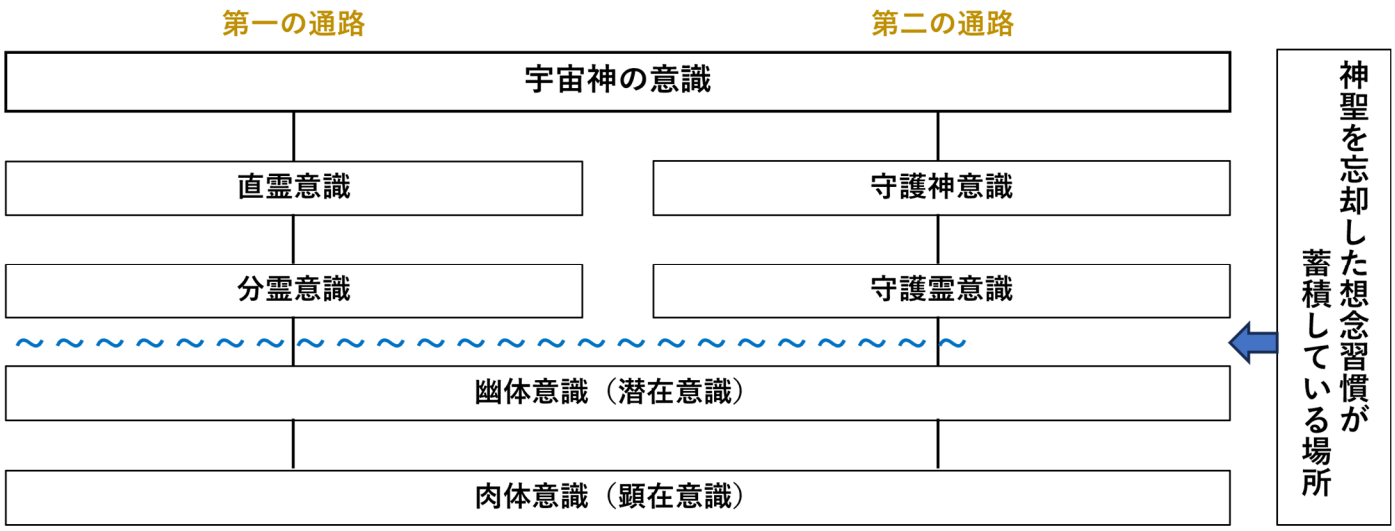
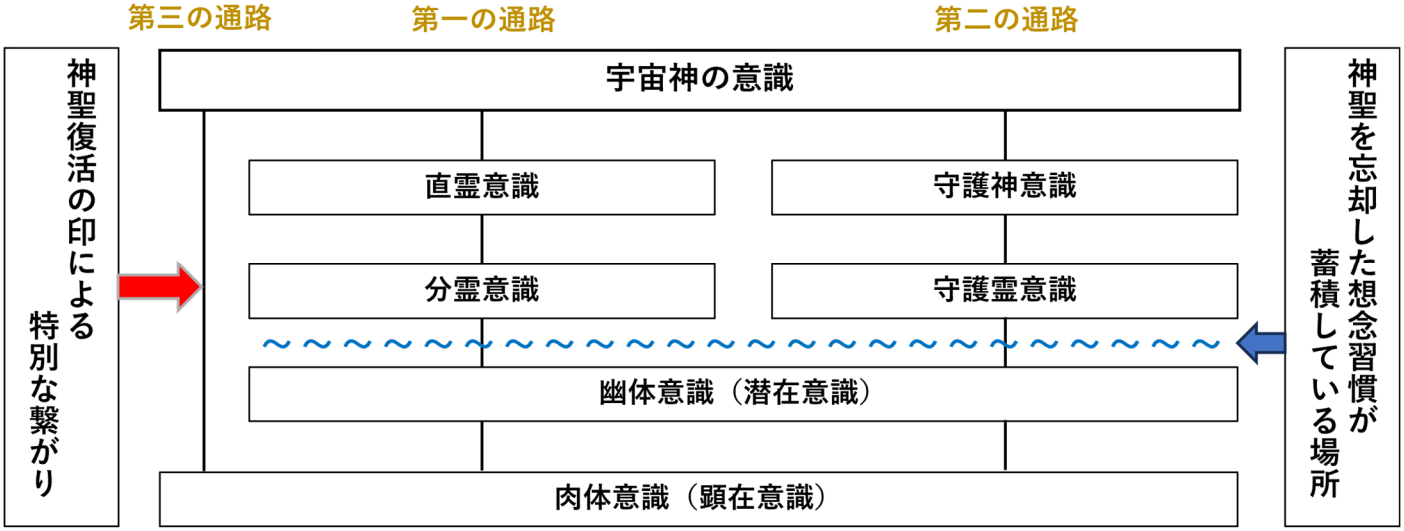
斉藤：皆さまこんにちは。ご参加くださりありがとうございます。本日は、神聖で繋がり合う日の勉強会を行います。メールでは『魂の構造と宇宙』って出てたと思うんですけれども、それに関連したメールで、後から PDF のファイルで「人間の魂がどういうふうにできてるか」っていう表を出しました。今それを画面共有します。



この表の部分だけを見てください。肉体の意識があって幽体の意識があって、その上に第 1 の通路・第 2 の通路があって、これはもう何十年もお祈りされてる方はもうほとんどご存知な方ばかりじゃないかと思うんですけど、分霊の心があって、直霊の心があって、命の大元ですね、宇宙の源っていうんですか、宇宙神の意識のところへ行く。

でも今まで人間がそれを思い出せないでいたっていうのが、この青い波線のところ。心の空ってイメージしたらわかりやすいと思うんですけど、心の空の部分にものすごい厚い雨雲が垂れ込めてて、太陽の光が届かない状態になっていた。霊界までは届いてる霊光太陽が、霊光太陽っていうのは、宇宙神の光ですけど、その霊光太陽が届かなかった。それで、自分たちは神聖の存在なんだっていうことを私たちは忘れていました。



で、神聖復活の印が出て、この命の源と直接繋がる第 3 の通路が出来上がったんです。それによって、第 2 の通路の守護霊意識・守護神意識とのこの繋がりがまず強くなってくる。人によってはもう、一つになってる方もいらっしゃるかもしれないですけど、ここが強くなることで、最後まで残ってた第 1 の通路、この分霊意識・直霊意識・宇宙神っていうこの流れが、直通するって

いう、そういうことになってまいります。それで、おぼろげながらも神聖意識を思い出すことが可能になった。でも、それだけでは人格の完成とか、魂の統合にはまだ足りない。そこで大切になってくるのが、この守護霊守護神と一体になってゆく第 2 の通路を開通することです。

これはもうずっと何十年ももう私たち、長い方はもう 40 年 50 年、もしかしたら 50 年以上、60 年以上やってる方もいらっしゃるかも知れないんですけど。これが神聖復活の印を組むことによって、その力を借りることによって、今まで以上に、本当にできるように今なってきてます。

私ズーム祈りの会のお世話係をやっておりまして、北は北海道、南は沖縄まで、海外の人もいますけど、いろんな方と交流があります。人によってはメールのやり取り、 LINE のやり取り、フェイスブックのやり取り、WhatsApp のやり取り、それから携帯電話のショートメッセージのやり取り、あとは電話ですね、電話で直接お話するとか、本当にいろんな方のお話を聞いてます。

それで 2020 年代に入って、とくに今年に入ってからもうずっと思ってるんですけど、もう皆さんが変わった。本当に変わった。いいふうに変わった、立派になった。例えば三、四年前 Zoom の繋ぎ方がわかりませんって相談があって、電話でお話した方が、そのときは無理・駄目・出来ないって、物事を悪いふうに悪いふうに考えるような人だった人が、最近になって、また何かわからないことがあって電話でやり取りしたときに、「もうありがたくって、ありがたくって」っていう、わからなくても感謝ばかりの方々に変わっちゃったんです。ネガティブなことに焦点を合わせて、ああでもないこうでもないっておっしゃってた方が、もう感謝そのものの人に変わってるっていう状況を見て、本当に人っていうのは、この神聖復活の印で変わるんだなっていうのを日々実感しています。

それは、その奥で、その裏で、お一人お一人が守護霊・守護神さまと一つになってらっしゃるんだと思うんです。表面意識ではそれは理解されてないかもしれないですけど、もう一つになるっていうことが、3 年前、4 年前、もっとさかのぼって 5 年前・10 年前・20 年前・30 年前と比べたら、もう雲泥の差、天と地ほどの開きのある違いになっていて、気づかなくても守護霊意識・守護神意識っていうのが、このご自分の表面の肉体意識、心理学用語では顕在意識って言いますが、肉体の意識に表れているんだと思います。

もしそれが、その実感はないなって思われる方がいらっしゃったら、私が体験した一番簡単で具体的な方法として、一日中、守護霊・守護神、特に守護霊さまに感謝して生きることをおすすめしてます。またそれを広げてすべての人に感謝する、もっともっと広げて、どんなことにでも感謝しながら、生きるということをおすすめしてます。

これはただ単に、知識としてそれがいいという話ではなくて、私自身がこの間の Zoom でも話しましたが、本当に不平・不満・不足ばっかり、一日中たれ流す人物だったんですね。例えば 2000 年代に富士聖地へ行くバスの中で、こういうことがありました。「あなた、昭和の頃からお祈りしてて、なんで講師にならないの？」っていろんな方からバスで言われてました。そのときに、ホントに今考えると恥ずかしいんですけれど、こういうことを言ってました。

「何言ってるんですか、講師の人たち見てくださいよ。ろくな人いないじゃないですか。あんなんなるぐらいだったら講師なんかなりたくないですよ。」そんなことを言ってました。また、うちの人に言わせると、富士聖地行きのバスの中で、パーキングエリアでお弁当を買ってバスの中で食べるんですけど、自分の嫌いなおかずが入ってたら、そのおかずに対して文句言ってたそうです。

どういう言葉で文句言ったのかも思い出せないんですけど、おかずにも文句言ってたと。この話をいつか古賀さんにしたときに、「斉藤さん。それ、よっぽどですよ。」って言われました。もう本当にそういう人間だったんです。それで、2007 年 1 月の新年の指針で、【業想念が多すぎる。一生をかけて逆転せよ。】っていうのをいただいて、もう本当に図星で、だけど、そのときどうやったら良くなるってのをよくわかってなかったんですね。自分で図星だっていうそこを突かれたっていうことで落ち込みました。

3 年ぐらい暗い気持ちで過ごしてて、2010 年になって多分守護神さまだと思うんですけど、「すべての人に感謝しろ」「起きている間中、ゆったりとしたゆっくりな呼吸をしろ」という二つの言葉が、ものすごい強い響きで出てきました。

そのときに私は、「呼吸は、得意だからやります。でも、すべての人に感謝しろっていうのは、嫌いな人にはできません。苦手な人にはできません。」って、そういう答え方をしました。そしたら、あの孫悟空の輪を閉められるような感じで、「つべこべ言わずにやれ」と。「心の中で、なんでこんな人にって思ってても いいから、それでもいいから、やりなさい」と。「顔はにこやかに、声は柔らかく、演技でいいから、やればいい。」っていう話がありました。

私は覚えてないんですけれども、何年前か何十年前からの富士聖地のお話で、「演技でもいいからやる。」というお話があったそうです。どなたか覚えてらっしゃいませんか？その話。覚えてる方、ちょっとお話してもらえません。手挙げてください。はい、どうぞお願いします。

参加者：はい、そのお話はよく覚えてまして、昌美先生が、「本当に演技でもいいからやり続けなさい。演じて演じて演じ続けると、本物になります」っておっしゃいました。「そうなんだ」って私は鮮明に覚えておりまして、それを実行してますし、娘は何か突き当たったときにその話を持ち出して言ってます、思い出しました。

斉藤：何年前ぐらいですか？

参加者：そこは覚えてません。もうかなり前です。

斉藤：そうですか、本当にありがとうございます。私も全然覚えてなかったんですけど、そういう話があったそうです。嘘でもいいからやるっていう、これをやっていくとやり続けていくと、この本当のものになるっていうことを実体験しました。最初は 3 ヶ月目ぐらいで、私、嫌いな人がいっぱいいたんです。苦手な人もいっぱいいたんです。もう人間関係が嫌で嫌でしょうがなかった。昔は、そういう人間だったのに、3 ヶ月ぐらいたって、「あれ、あの人のこと、嫌だなって思ってないな」「あの人のこと嫌いだって思う気持ちがなんか薄くなってるんじゃないかな」ってそんな感覚がありました。

これはもう、本当に効果のあることをやってるのかもしれないと思って、ずっと続けたら 3 年何ヶ月か、何ヶ月ってところまでは忘れましたけど、2013 年か 14 年ぐらいには、もう本当に苦手な人もいないし、嫌いな人もいないっていう状態になりました。それはゴールじゃないんですけれども、一応そういう状態になりました。

それで 2018 年ですか。あの中澤さんが Zoom 祈りの会を始めた。最初は緊急ってついてましたけど、9 月 6 日ですね、18 年の。そのときに初めて、ひょんなことから、裏方でお手伝いするようになり、18 年の 12 月から 19 年の 1 月にかけて中澤さんの体の調子が悪くなって、咳がこの止まらなくなったときに、私は自分が代わりをやるっていう考えはまったくなかったんで、中澤さ

んに、「どなたか、研究員の方で代わりにやってくださる方はいらっしゃらないんですか？」って聞きました。そうすると、中澤さんは何人かこのあたりをつけて聞いたそうなんですけど、みんなに断られて誰もいないっていう状態で、19 年の 1 月の終わりだったと思うんですけど、「誰もいないから斉藤さんお願いします」って言われました。その頃には覚悟を決めてたんで、わかりましたって言って、2 月ですかね 19 年の 2 月だと思います。中澤さんに週に 1 回か 2 回お休みしてもらうっていうことで、代わりに画面に出るようになりました。

もう最初は人前に出るとか、人前で話すとかそんなことをまったく慣れてもいないし、やると思ってなかったんで、目の前に人がいないのに、画面の中にしか人がいないのに、ものすごく緊張して、膝がガクガク、ガクガクすごい勢いで震えてました。うちの人が横でそれを見てて、彼女はそれを覚えてるんですけれども。ものすごい緊張状態でやってました。そのときに私がそこを乗り越えられたのは、 Zoom に参加してくださってる皆さん、特にお母さま方やお姉さま方が応援のメールをいっぱいくださったんです。「頑張れ、斉藤さん」「頑張れ、頑張れって思って一緒に出てるから頑張ってね」とか、いろんな励ましのお言葉をいただきました。

それで何とか慣れたって言ったらあれですけど、膝は震えなくなりました。そこから先は、2019 年の 7 月の終わりですかね。中澤さんが 10 日間の家族旅行って言ってお休みされて、朝は頭士さんにお願いし一部篠田さんにお願いしましたが、夜は私が担当しました。中澤さんが翌 8 月に 3 週間のケース検査入院をするからお休みすると、3 週間ぐらい実質休まれたんですけれども、そのときから今やってる 7 カ国へのお祈りが始まりました。

以降は皆さんもご存知の通りなんですけれども、その裏側では、いろんな方とのやり取りが、この中澤さんのお手伝いをするズーム祈りの会のお世話係をするっていうところから、いろんな方との交流が始まりました。

中には、誰ってことは伏せますけれども、何が逆恨みされたんでしょうけど、ナイフで刺すとかメールで書いてくる人もいましたし、お酒に酔っ払ってベロンベロンになった状態で電話してきて、「メールをちゃんと受信できないのはあんたのせいだ」とかって、今、柔らかく言ってますけど、チンピラみたいな口調で言われる方もいらっしゃいました。私そのとき、まだ人間ができきってなかったんで、「なぜこんなこと言われなきゃいけないんだろうな」って、とても嫌な気持ちになりました。

でもその裏で、Zoom でいつかやろうと思ってる話なんですけど、私は個人的に人に感じた想いを自分に向け直すっていう練習を、もう何年も 10 何年ですかね、10 年以上やってて、そのときも、それをやりました。そしたら、その人、嫌だなって思った、その人に対して感じてた想いの原因を自分の心の中に見つけました。

それはどういう状態かというと、例えばものすごく大雑把な言葉で言うと、自分に許されてないで、いじけてる自分がいました。逆に、自分を許さない、許さないぞって、もう本当に自分を許してない自分もいました。自分を愛してない自分と自分に愛されてない自分がいました。そういう何か一見相反する、まったく正反対の自分が同時に存在してたんだっていうことをそのとき見たんですね、心の中に。

皆さんにお話したか一部の方にしかお話してないか、覚えてないんですけど、私は何十年もの間、天との繋がり、縦の繋がりだけ求めてたんです。横の繋がり、人の繋がりなんかまったく興味もなかった。逆の言い方をしたら苦手だったんですね。だから、私の守護霊・守護神さまは、この

このまんま置いといたら、一番大事な時期に使い物にならないっていうことで、中澤さんの守護霊・守護神さまにお願いをして、「これこれこういう理由で、このままじゃこの子はいつまで経っても神聖復活しないから、ちょっとうちの子をあなたのもとで鍛えてください」っていうお話があったんだと思うんです。それで、他者(ひと)との交流の面を鍛えてくださったんだと思います。

そうだ、宇宙の話ですよね。『魂の構造と宇宙』っていうタイトルを今日の勉強会につけたのは、広いところを先に見て、だんだん狭めていって、1 人の人間っていうのがこういうふうになってるっていう捉え方をしたら、わかりやすいんじゃないかしらっていうことを思ったので、そういうタイトルをつけました。

今からする話は、私が自分の命のもと、奥からキャッチした話です。なので、他の人がおっしゃってる話とは違う部分があるかも知れません。それは、私も完璧じゃないんで、私のフィルターがかかって、ちょっと真実がちょっと曲がって、こう表現してるところがあるかもしれないですけれども、これが絶対正しいっていうことはありませんので、もう人が違えば見え方が違うっていうのは当たり前なんで、そういう見え方、そういう感じ方、そういう捉え方もあるのねというお気持ちで、聞いていただけると助かります。

『神と人間』っていう本を読んだことのある方は、宇宙の始まりがどういうことになっていて、どういうふうに広がっていったっていうことを、皆さん大まかに理解されていると思います。最初は「(原初の）意識」しかなかった。中心の意識しかなかった。日本の古神道では、それを「まるちょん」って言葉で表現します。丸の中にちょんが入ってる。ちょんって入ってる。

まるちょん

それは宇宙の始まりを表現してます。その宇宙の始まりの意識が、「こういうふうになったらいいな」って思ったことから宇宙が始まりました。具体的には、宇宙空間が広がるっていうことと、最初に（一番初めの）恒星ができたんですね。恒星っていうのは、太陽のように光る星で、その恒星が惑星を生みました。ポンポンポンポンって自分の光の玉を分けて、そしてその惑星は恒星の周りを回り出す。それが一番最初の銀河、今の宇宙で言えば、宇宙の中心ですね、そこに最初の銀河系ができて、その最初の恒星が、子供の恒星を作り、その子供の恒星がまた惑星を作り、その惑星はその恒星の周りを回りっていうことで、どんどんどんどん広がっていきました。

それを今の地球の側から見ると、宇宙っていうのは、入れ子構造になっている。入れ子って言葉でピンとこない方は、マトリョーシカ人形を思い浮かべていただけるとわかりやすいと思います。マトリョーシカ人形って、カパって空けたらその中に人形があって、カパって空けたらその中にまた同じ、ちょっと小さいものがある。またカパって空けたらまたあって、それを何回も何回も繰り返してどんどんどんどん小さくなっていくっていう。ちょうど銀河の集まりがそういう形になってるんですね。

太陽系から見ると、太陽があって、金星や水星や地球があるこの太陽系を含む親銀河があります。親銀河はそのまた親銀河に含まれている。銀河系が集まって一つの銀河があり、またその親親銀河のさらに親親親銀河があってって、どんどんどんどん親の親の親、親の親の親の親銀河って、どんどん大きな銀座になっていくっていう形で出来上がっている。

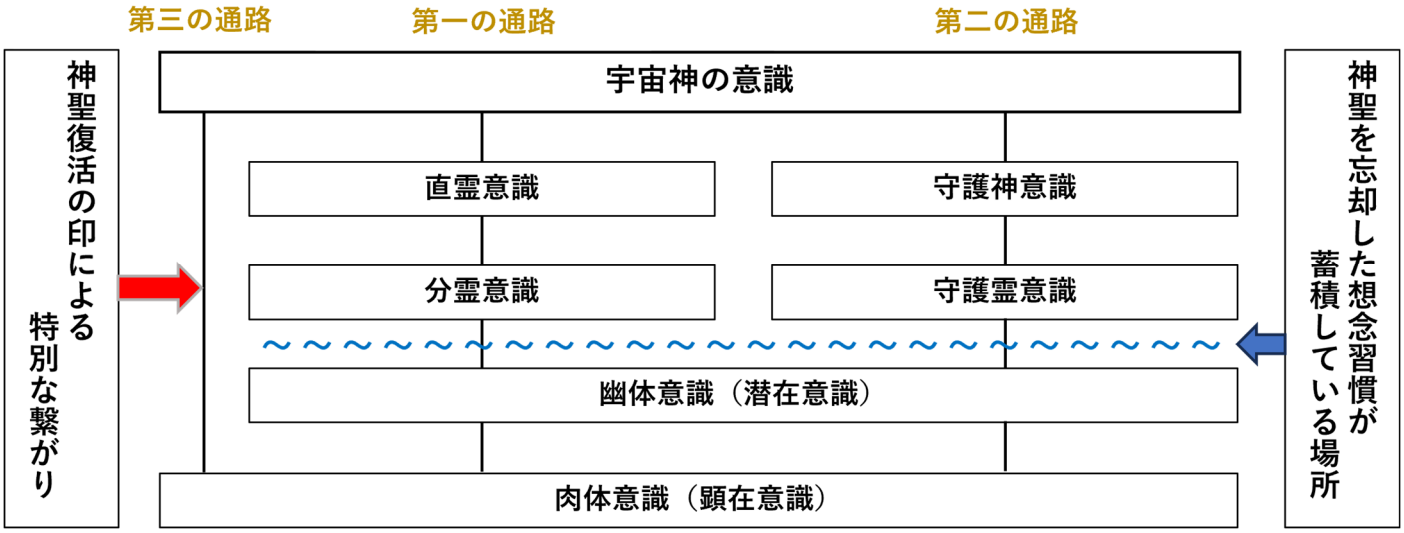
ちょっと話が脱線しますが、昭和 61 年、1986 年 5 月 25 日、富士聖地の野外会場で、宇宙のも

う遠い、本当に奥の奥の方から来られた大天使群って表現されましたけど、もう本当に進化した宇宙の中心の方々がたくさんこられて、富士聖地の上空に 1 万機だか 2 万機だか、ものすごい数の円盤が待機しているっていうお話がありました。覚えてらっしゃる方もいらっしゃるかもしれません。

その円盤、たくさんの円盤は、私、数字忘れたんですけど、2300 段階だか 2400 何十段階だか、銀座の奥からやってきたっていう話がありました。そのとき参加してた方は覚えてらっしゃるかもしれませんけど、上空に待機してる円盤の中から、参加者は当時何千人いたでしょう、1 万人いたでしょうか？参加者 1 人 1 人の体に、今からあなた方の体に入ると、宇宙人が宇宙天使があなた方の体に入ります。一瞬入ってすぐに抜けます。っていうことで、それが実際に行われました。

そのとき、向こう側、宇宙天使群の方では、地球の人たちの現状をよく理解できるようになり、逆に入られた、入っていただいた私たちの側は、その宇宙人が持っている宇宙の叡智・智慧・能力・力、彼らの文化・文明、それが、何て言うんですかね、自分のものになっていくっていうそういうことが起こる。だから今これを体験した人たちの中から将来、地球をよい星にするために活躍をする人たちが現れるっていうお話だったと思います。

その話の内容は脇に置いて、二千何百何十段階っていう、それがどれぐらい奥の宇宙なのか、ちょっと想像もつかないんですけれども。入れ子構造になってるっていうのは、太陽系の親銀河があって、親の親銀河があって、さらに親の銀河があってっていうふうに、宇宙の中心に向かってどんどんどんどん大きな大きな銀河になっています。



そうですね、ここです。この図ですね。1 人の人間が肉体だけの存在として生きていたっていうのは、これはあくまで肉体が人間だと信じられていた時代のあり方です。今はもう既に私たちの肉体だと思ってるこの体が、半分幽体・半分肉体の状態になってます。

やがて、肉体だと思ってたものは、幽体になり、今度は幽体と霊体が重なり合う。そのうち、霊体がイコール肉体だっていう時代になってきます。そのときにはもう幽界だとか地獄界だとか無明界だとか、そんなものはありません。肉体界イコール霊界の段階になります。そのときには、宇宙のほかの星々から来た円盤と肉体人類が普通に交流することができる時代になるんだと思います。

人間を卒業したら私たちは（これは私、自分の中から教わった話なんで、他の世間の方々がどうおっしゃってるのかはわかりませんけれども）、人間っていうのは人間を卒業したら、自然界とか動物とか、いろんな自然現象をつかさどる神々の役割をするんだ。それも卒業したら、今度は惑星の意識を担当するようになるんだ。地球霊王さまとかいう言葉がありますけれども、地球の意識、地球が自分の体になる、惑星の意識もクリアしたら、次は恒星の意識を、いわゆる太陽神ですね。恒星の意識を経験する。誰でもなれるもんじゃないと思いますけれども、どんどんどんどん自分の意識というものを磨き高め上げていけば、そういうふうに、惑星、恒星の意識を担当するようになり、太陽系銀河での学びが終わったら今度は親銀座で同じようなことを繰り返し、親銀河での体験が終わったら、親親銀河へって中心のほうへ近づいていく。

どんどんどんどん、何千段階なのか、何万段階あるのかわかんないですけど。宇宙の中心へ戻っていくと、本当に正真正銘、大元の中心の大宇宙心って言ってもいいですね。大生命の源、命の源の意識に帰ります。本当にありとあらゆる体験を宇宙で体験し尽くした人は（これも誰でもなれるもんじゃないと思いますが）、自分が今度は中心になって宇宙の中心になるんだよって教わりました。

「そんなことあり得るんだろうか？」って思ったんですが、この話をうちの人にしました。多分この一年以内のことだと思います。「こういう話があるんだけど」って伝えたら、彼女は物知りなんです。スピリチュアル界隈のことはもう、彼女自身が歩く辞書じゃないかっていうぐらいいろんなこと知ってるんですね。「こういう話が出てきたんだ」って言ったら、それ、「同じこと言ってる人がいるよ。何人もいるよ」って言われました。

だから、「ああ、受け取ってるのは私だけじゃないんだ」って思いました。だけど、公に自分が宇宙の中心になるなんていう話は出回ってないんで、にわかには信じられない話ですけれども、そういうふうにして他の宇宙があるっていう、自分自身が他の宇宙の中心になる可能性を秘めた存在なんだっていうふうに理解していただけるいいと思います。

あんまりこういう不思議系の話ばっかり言うと、そこに引っかかる方がいらっしゃるんで、私、あんまりこういう話を普段、人にしないんですけれども、魂の構造っていうもの、人間っていうものがどういうものなのかっていうのをわかる上で、こういう宇宙全体と、一人の人間っていうこの対比で見ていくと、わかりやすいかなと思って、そういう話をしました。

昨日のお昼前に『連絡事項』というメールを送ったんですけれども、メールを読んだある方が、「斉藤さん、自動書記してるの」って聞いてきました。それは本筋じゃないんで、あんまりそこを気にしていただいたら困るなと思ったんで、「そうですよ」とは言いましたけど、「自動書記って一口に言っても、いろんな自動書記があるんですよ」っていう話も伝えました。一番困るのは、自分の意識を刈り取られて、誰かに自分の全部を委ねてしまった状態でそうなるっていうのが一番困る状態だと思います。私の場合は自分の意識が残ってて、手だけが動くんですけど、その手を止めようと思ったら止められる、自分でコントロールの利く状態なので、安全な部類ではないかと思っております。

でもそんな自動だとか自動じゃないとか、そんなことはどうでもいい話だと思うんで、あんまり霊的なことは気にしないのが一番いいなって思います。見えも聞こえもしないっていうのが、人間は一番幸せだと思います。もう悟りを完全に開く、神我一体の境地に至るまでは、霊的なことは興味を持たないのが一番です。

仏教で六神通っていうのがあって、私たちみんな昔聞いてると思いますけど。天耳（てんに）通とか天眼（てんげん）通だか、見えないものが見える、聞こえないものが聞こえるとか、あの空を飛べるとか、いろんな能力があるんですけども、そういうのは、幽界の生物の力を借りてでもできることだから、そういうものには興味を持ちなさんなっていうふうに、私たちはみんな聞いてると思います。それで一番いいのは、この六神通の中の最高の通力であるところの漏尽通を自分のものにするのが一番いいんだよっていうふうに聞きました。

また、その状態はどういう状態かというと、神の心を自分の心にした状態。具体的に何が起こるかというと、自然と思ったことが神の響きと一致してる。自然と語った言葉が神そのものが語ってる、自然と行なったことが世のため人のためになっている。そういう状態になるのが一番いいんだよっていうふうに、私たちは教わりました。

それは例えば、幽界とか霊界とか神界とか見えなくても、あちらの世界の霊の言葉を聞けなくても、自然とそれが自分の想念・言葉・行為に表れているっていう状態が漏尽通の状態なんですね。私たちはそういうふうに教わってきてるんで、今その通りになってきてるんだと思います。

地球が本当に完成する前に、大変な時代を通過しなきゃいけないという話があります。今も十分大変ですけど、私はまだ序の口だと思ってます。2011 年だったと記憶してるんですが、言霊の祈りでしたっけ、「地球の安寧と世界人類の平和のために…」って言葉で始まる文章、『宇宙神と一つに結ばれている私誰々を犯すものは一切何もない』っていう文言が入った文章ですね。

あの中でその後に、「やがて地球に迫りくる地球規模の大変革に際し」っていうこの部分が、どういうわけなのか、クレームがついたのか何なのかわかりませんけれど、「やがて地上に降り来る輝かしい地球規模の大変革に際し」って直されました。今この言葉をお使いの方は、この明るい文面に変わった方を使ってらっしゃると思います。でも、神々が伝えたかった、本当に伝えたかったことは、最初に出た言葉で、「やがて地球に迫りくる」っていう、そっちだったんですね。

「そのときに動じない人たちになってほしい」っていう気持ちで出された言葉だと思うんですけど、こちら側に合わせて優しい言葉にされたんですけど、その「やがて迫りくる」っていうのが、本当にもう今この瞬間だっていう言い方もできるし、もうちょっと先だっていう言い方もできますけど、もう本当に今までの常識が通用しなくなります。

そのときに何が通用するか。神々の世界の常識、霊界・神界の常識に変わるときが来ます。そのときには、今までの価値観とかやり方とか、生き方とか経済がどうだとかそういう話がまったく通用しなくなります。一時的に本当に大きな混乱状態に地球がなるんだと思います。私たちはそのときに、99%以上の人たちと一緒に不安動揺するんじゃなくて、「大丈夫ですよ」「大丈夫ですよ」って言って歩ける人たちとして今育てられてるんだと思います。

私が受け取ったイメージの中で、ちょっと一つ面白いのがあったんですけど、こういう神聖復活の印を組んでるような人が避難所へ行く。その避難所では、もう流通も麻痺してるから食べ物も届かなくなって、みんなが「どうするんだよ、俺たち食べるものないじゃないか」って、ガヤガヤ騒いでるような状況のところへ印を組んでる人たちが行って、「はい、皆さん、今からおにぎりとお茶を配りますよ。順番に配るからそのまんま自分のその場所で待っててください」って言って、「あなたは何がいい？鮭？おかか？梅？昆布？」って、ひとりひとりの好きなおにぎりの具を聞いて、私たちは空中からそれを取り出す。おにぎりとお茶を取り出していって、ひとりひとりに手渡して歩くっていうそういうイメージがありました。

また人によっては、テレポーテーション能力とかテレパシーの能力とかが出てくる。ライフライン、電気・ガス・水道使えなくなったら、私たち、携帯電話も使えません。コンピューター、パソコンも使えません。こんなズーム祈りの会なんてできなくなります。

そのときに、私たちは離れたところの人とテレパシーで会話できる。人によっては、もう行きたいところに一瞬で行けるっていうことになると思います。今シリアが大変だ、シリアでお祈りよう。あそこの山の頂上に集合とか言ったらみんな一瞬でそこへ行って、そこで何か印組んだり、ご神事して帰ってくるっていう、そういうことができるようになる人も出てくるんじゃないかと思ってます。決してそれは夢物語じゃないと思ってます。

それぐらいのことができる人がたくさんいないと、80 何億人といわれてる地球の人たちを助けられないからです。よく言われるのは、1 人や 2 人の救世主が出てきて 3 分の 2 が滅びてから救世主出てきてどうするんだ。そんなのろまの救世主なんかいらないよって、昭和の頃に聞いてたと思います。このような時代にあって私たちは、救世主としての働きをする人たちなんだと思います。

我が、我が、自分が、自分の、自分で、自分をって思う習慣を薄め尽くした人たちがそういう働きをするようになるんだと思います。そうすれば、いいことは誰がやってくれてもありがたい。いや、それは俺がやるんだよ、お前がやるなよとか、そんなケチくさいことは言わない。みんながそれぞれ何か役割が、天命があるんだと思うんです。

人にお話することが得意な人もいるかもしれない。人のお話を聞いてあげることが得意な人もいるかもしれない。みんなをまとめることが得意な人がいるかもしれない。文章を書くことが得意な人がいるかもしれない。いろんな力を、持ち味を、みんなが発揮して、それで長所・持ち味を寄せ合って協力し合って、地球を平和に、本当にもう宇宙に開かれた地球にしていくんだと思います。

「あなた方は大丈夫」っていう言葉を、もう耳にタコができるぐらい、私たちは聞いてると思いますけれども、私は本当に大丈夫だと思います。そう言われたから大丈夫じゃなくって、魂の奥底から大丈夫だと思う。仮に今この瞬間、あってはいけないことですけど、北朝鮮が北海道から沖縄までいろんなところに何か原子力爆弾かなんか落として、私たち日本人が全員死んだとしても、それでさえも何の問題もない。あちらの世界で働くだけですから。

ただ、そうなってしまうと、地球の未来がなくなるから、神々や宇宙天使の方々は、絶対にそういうふうにはさせないと思っております。日本っていうこの土地と、この土地に住む人たちの潜在能力っていうのは本当に素晴らしいもので、地球全体を仲良くさせて、まとめていく働きをこれから私たちが発揮してくんだと思います。

今はそのための基礎体力をつけているような時間なんだっていうふうに思ってます。もしかしたら、もう半分本番になってるかもしれないんですけれども、そういう意味で Zoom 祈りの会の中の火曜日と木曜日と日曜日の夜は、各国の方々に印のリーダーをお願いしてますけれども、今出てらっしゃる方っていうのは、もう 10 年 20 年 30 年と祈り続けてきた、言ってみれば私たちの仲間なんですね、国は違うけれども。

それをこれから世界中でこの神聖復活の印が広がっていくにあたって、白光のびゃの字も知らない方が、みんなと印を組みたいって言って、集まっていただける場所にしたいと思ってます。私、

この話 2019 年頃から他の人にしてたそうなんです。それで、思った通りに動いていっています。次の展開として、神聖復活の印だけで繋がってきた人たちも一緒に印を組める場にしていきたいと思ってます。中澤さんと相談しなきゃいけないですけど、 Facebook で公に募ったりとか、何らかの形でこういうのを日本でやってるよっていうことを発信していきたいと思ってます。ごめんなさい、1 人で喋っちゃってますね。ご質問ある方、あの、何でもいいです。どなたでもいいですよ。手挙げてください。はい、どうぞ。

参加者 A：私〇〇と申しますが、お世話になってます。先ほどすごく重要な話があったんですけれども、感謝ということで、昌美先生が徹底的になさりなさいと、要するに真似事でもいいから感謝を続けると本物になりますということをおっしゃられたという部分です。そこのところをもうちょっと詳しく。五井先生がおっしゃっているのは、あくまでも感謝というのは、現われてきたものに対して、これで良くなるんだという、その真理があってこそ感謝が生きる。その感謝をそこにあって、徹底的に感謝するというところがあったんではないかなと。

※この方の理解は、私が実践した「無条件の感謝行」と、「消えてゆく姿の実践」とを混同されておられます。また、2010 年当時の私が、真理がよく分かっていない状態にあったということを見抜けていません。（真理がわからないからこそ、嫌いな人がたくさんいたわけです。）ですから、この後のやり取りは、最後までかみ合わないものになっております。

（つづき）それでなければ続けていけないと思うんですが、そこら辺をどのような表現で、おっしゃられたか、もう一度確認したいというところがありますんで、教えていただければと思います。

斉藤：はい。感謝をするっていうのは、 理性とか、知性とか、そういう性質とはもうまったく異なることだと私は理解してます。どう異なるかというと、大元と直通する言葉。感謝する対象と一体化する呪文、一体化する魔法の言葉だと思ってます。例えば私の体験で、本当に私は人の好き嫌いが激しくて、「あんな人に感謝できるわけねーじゃねかよ」とか思いながらやってた時がありました。嘘でもいいからやれっていうふうに自分の中から言われたんでやりました。

そのときに、さっきの演技の話じゃないですけれども、本当に演技してました。「ありがとうございます」って年上だろうが年下だろうが同い年だろうが、どんな人に対しても。「あの人、ありがとうばっかり言ってるよね」って陰口言われるぐらい、「ありがとうございます」「ありがとうございます」って言ってました。そのとき、私は気づいてなかったんですけど、この「ありがとうございます」っていう言葉の中に、その伝えた相手と自分を一つにする力があるんだと思ってます。

だからこれ、この感謝の響きが持つ力については、もう理屈で考えてもわかんないことだと思うんです。やればわかる、やらない人はわからないっていう。だから昔の妙好人って呼ばれた方が、「南無阿弥陀仏」とか「なんまんだぶ、なんまんだぶ」とかって、難しいことを考えないで、ひたすら唱え続けて、人格が素晴らしい人たちになっていったっていうのと通じる話だと思います。

全然関係ないんですけど、スピリチュアル界隈で二千ゼロ年代に、ありがとうおじさんって人がいらっしゃいました。ご存知の方もいるかもしれないですけれども、その方がおっしゃってたのは、1 万回、ありがとうございますを言えば、悟りを開けるってその人は言ってたんですね。その後を追跡してないんで、今お元気でいらっしゃるのかわかりませんけれども、そういう方もいらっしゃいました。

今、五井先生って言葉が出ましたから。言いますけれども、五井先生が神我一体になるときも、昭和 23 4 年の話だと思います。何も思ってはいけないという想念停止の修行がありました。そのときに五井先生書き残してらっしゃいますけど、一つだけ許された言葉があった。それは、「神さま、ありがとうございます」です。この言葉だけは思ってもよいっていうふうに言われたっていうことをどこかに書き残してらっしゃったと思うんですけれども。

参加者 A：そうですねえ。それで私はそこで思いましたのは、やはり対象は神さまありがとうございますというところに通ずる天の心が、あの繋がるというふうに思ったから。ただ、あれが確かにありがとうございますのは、言葉を持つ言葉の力が言霊にありますけれども、意識としては、やはりそこは、昌美先生がおっしゃらないけれども、神さまに対する感謝というところが、そういうふうに成し遂げるんじゃないかなというふうに感じたものですから、余談でしたけれども、お聞きしたところでございます。

斉藤：その認識で大丈夫だと思います。っていうのは、ちょっとこれは白光の人は聞いたことのない話かもしれない。もしかしたら、興味を持って知ってる方もいらっしゃるかもしれませんけど、外国の方いらっしゃらないので、言いますけれど、日本語っていうのはものすごい特殊な言語で、中国語でも英語でもフランス語でも、ロシア語でもいろんな国の言語っていうのは、人間と人間が交流するための言葉だというふうに言われてます。

ところが日本語は交流するための言葉としても使われてるんだけれども、実質的にこの日本語を私たちが日々想い語るっていう中で、日本語がどういう働きをしてるかっていうのを研究した人がいます。その人が発表されてたのを読んで、私はなるほどって思ったんですけれども、日本語っていうのは、人と人が直接交流するための言葉ではなく、一旦自分の発した言葉は、神さまの中に入るんだ。神さまの世界に行くんだ。そこを経由して、相手に伝わるんだっていう話がありました。

私はとても腑に落ちたんですけど、対象がどんなものであれ、例えば道端に咲いてる草に対して思うでも、なんかの蜜を吸ってるハチに対して思うのでも、この空気に対して思うんでも、大地に対して思うんでも、もちろん人に対して思うんでも、私たちが「ありがとうございます」という言葉を発してるときには、神さまって思わなくっても、もう神の響きを経由して相手に伝わってるもんですから、特に難しいことは考えなくていいのではないでしょうかって思います。

参加者 A：はい、私も同感です。ええ。ただね、斉藤さんの話は、非常に臭みがないから、まったくそのまま素直に聞けるし、本当にその通りだなっていうふうに感じます。ただ、私は聞いたところ、要因、原因というか、その根拠は、ずっと臭みのないような「ありがとうございます」が本当に世間の人たちからもいいかなと思います。

ただね、「ありがとうございます」っていうのはもうわからない人にはちょっと違和感もあるということも留意しながら、そういった部分で斉藤さんのおっしゃる真理がわかったところの、斉藤さんのおっしゃってるところは全部真理がわかってるところの感謝ですから。全然わからない人が真理も何もわからない人がただ感謝というものに疑問が出るというところを、ちゃんとフォローした方がいいかなということを感じたものですので、ちょっと一言、言わせていただいた次第です。よくわかります。斉藤さんのおっしゃってることすべて、私も同感です。ありがとうございました。

斉藤：はい、ありがとうございます。はい。他にご質問のある方、いらっしゃいます。ご自分の

マイクをオンにして喋っていただいて構いません。はい、どうぞ。

参加者 B：先ほどの方がおっしゃいました私の発言のちょっと続きを短く。昌美先生が、演技でもいいから演じ続けなさいっておっしゃった。そのことは、昌美先生はいつも真理を降ろされるときはこうだからこうですよとか、その後こうですよとか一切ご説明がないんですね。ぱっとそのことだけを降ろされるんで。最初、私もやっぱりちょっと演じ続けるでも、嘘でもいいから演技でもいいからって言われたときにすぐ実行しましたけど、ちょっと無理があるなって自分で思いましたけれど、でも、昌美先生が天から受けられたお言葉だからやりましょうって、やってるうちにですね、そういう場面に遭遇したときに、なんでこの人こんな言い方するんだろ、神さまのことなんか何も通じてない人、やっぱりそういう思いが出てきましたこともありました。だけど、ただただ演じ続けているうちに、この方の消えていく姿なんだって。この方はそういう方法でねあの性格の癖もありますし、その表れて嫌だと思った面はすぐは消えてないんですけどね。私の心の中では、でもそこを、「この方の本質じゃないんだ。でもこういう方法でもってそれは何か表してらっしゃるんだ」って。そうしますとね、消えてゆく姿とその方の本質というのが演じ続けてるうちに、はっきりしてきましてね、それが五井先生のおっしゃってる“消えていく姿”を、そういうところではっきり教えていただくことになって、何か本当に納得した。ただ自分をごまかしてということじゃなくて、一番はじめに消えてゆく姿ってちゃんとおっしゃってたじゃないって、自分の中で記憶が蘇りましてね。

だから昌美先生が降ろされる真理っていうのは、もう本当にそのとき自分が全面的に行じてなくても、とにかくひたすら素直に行じているとそれはもうまさしく宇宙神さま、五井先生に教えられたこととまったく一つなんだっていうことを体験しまして、それであの、演じ続けることができて、それがだんだん本物になりつつあります。もう本当に昌美先生がおっしゃってるのは、昌美先生が細かくご説明にならないだけのことなんですね。だからもう本当にそのようにやらせていただいております。

参加者 A：はいありがとうございます。私が感じたポイントは何かというと、我々先ほど今ご婦人の方がおっしゃられたように、やはりそこは真理がわかってらっしゃる行為なんですよ。何も理屈でもないんですよ。それは魂がわかって真理をわかってるからそれ出来る。ね、だからそこら辺が皆さんがわかっていただいて行なっているのであれば、私は全然ね、そこに挟むものもない。皆さん、まったくおっしゃるとおりですよ。だけど気をつけなきゃいけないっていうところで、留意しなきゃいけないっていうところで、ちょっと感じたところが、やはり祈っている、祈っていて、消えていく姿と世界平和の祈りを祈っていても、できない消えていく姿があるわけです。確かに感謝して感謝し続けて、そこで成就することもあります。

だけどそのときに、やはり心の中には真理があってこそ、すべてが神聖に運ばれて成就していくんじゃないかなっていうことを存じ上げてらっしゃるお二方だし、皆さんだから、あえてこのところを留意し、言えないことだってことは確認できたので嬉しいです。

参加者 B：はい。それでですね、本当に今おっしゃってること、もう本当に参考になる言葉をありがとう。それで消えてゆく姿の言葉の本質じゃない 、消えてゆく姿だってわかりますとね、そのあとね、その方のいいところがいっぱい見えてくるんですね。今まで見えてこなかった…。そうすると本当にその方のことが大好きになってね、何かびっくりするぐらい自分の中で、相手の方の見方が変わってくるんです。だからね、いいことがいっぱい見えてくるっていうとこまで行ってこそ本当に行じているということになるんだなと思って続けていこうと思います。

参加者 A：はい。本当にね、もう、もうその通りで、もう何も言うことないんです。本当にそうだと思います。要するに、あのね、我々は今、今、神聖復活の印で我即神也にも来て、人類即神也も来て、先ほど斉藤さん言った高級神霊と一体化した 1986 年、その後に我即神也が降りたわけなんですが、そのときの状況から、少なくとも 7 年、10 年、何年たった今日の自分というものがあってこそできるという感謝なんですね。だからそこら辺を本当にありがたいなっていうところがある。

だから、まったくこれから初めて消えて消えてゆく姿と世界平和の祈りを知った人にいきなり感謝だけと言っても、難しいなっていうところを考慮していただけたら、新しい人も、五井先生のみ教えに抵抗なく感謝行が入ってくるんじゃないかなと一言感じたもんですので、ええはい。間違いないです。皆さんおっしゃってること、間違いないですよ。ただ私はそのように感じたものですので、ええ。

斉藤：ありがとうございました。こういう言葉を聞いたことがあると思います。「人を見て法を説け。」今ここにいらっしゃる方は、もう本当に求めに求めてらっしゃる方だと思うんです。だから、さっきのような話になったんですけど、相原さんおっしゃったように、もちろんそういう真理っていうことにまだ深く通じてない方に話すときは、きっと違う言葉を話します。だから、今日の話は、この意識レベルの方々だから話せる話だと思って理解していただけると助かります。

参加者 A：ありがとうございます。そのように理解いたします。

斉藤：はい、他にご質問のある方いらっしゃいますか。それでは本日の勉強会はこれで終わりにいたします。皆さま、ご参加、有り難うございました。

最後に、統一をして、中澤さんの状況についてお話をして終了しました。